

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 会員総会のお知らせ P 2
- 中国国内での関心たかまる P 3
- ちゃいに一ず・ぐらふいてい P 4



小学校付属果樹園で子どもたちといっしょに木を植える (霊丘県韓家坊村)。

GENに参加するには

- ☆ 会員・会報購読者になる
- ☆ 自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ ワーキングツアーに参加する
- ☆ ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆ 使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1998・5

61

第4回 緑の地球ネットワーク 会員総会のお知らせ

1998年にはじまった緑の地球ネットワークの活動は、7年目にはいりました。黄土高原における緑化協力、北海道二風谷のナショナルトラスト「チコロナイ」など、少しずつ活動はひろがってきています。

しかし、会員数は思うようには増えていません。GENの活動をささえるのは会員のみなさんからの会費が大きいのですが、財政的にはまだまだ不安定です。現会員、会報購読者のみなさん

にも、GENの活動を友人、知人のあいだにひろげていただけたらうれしいです。昨年のCOP3以来、環境問題に関心のある人が増えていられると思います。今回の総会も、会員以外の方でも傍聴していただけます。中村尚司さんの記念講演とあわせて、関心はあるけど何をしていいかわからない、という方

を誘ってみてください。

また、今春NPO法が成立し、GENも法人化をめざします。具体的には条例の制定をまつこととなります。

会員のみなさんには別途会員総会の案内を郵送しますので、そちらをごらんください。

●日時：6月6日（土）15時40分～16時50分

●場所：大阪国際交流センター（TEL. 06-772-5931、近鉄「上本町」駅から徒歩5分、地下鉄谷町線・千日前線「谷町9丁目」駅、谷町線「四天王寺前」駅から徒歩10分）

緑の地球ネットワーク第4回会員総会記念講演

『共鳴しあう人間関係～21世紀の社会システム』

環境問題を考えるうえで大切なのは「循環性」「多様性」「関係性」の3つ—GEN発足時に貴重なアドバイスをいただいた中村尚司さんに、21世紀にむけての関係のあり方をテーマに講演をしていただきます。興味深いお話が聞けるとおもいます。ぜひご参加ください。

●講師：中村尚司さん（龍谷大学教授）

●日時：6月6日（土）13時30分～15時30分

●場所：大阪国際交流センター

●参加費：800円（GEN会員は600円）

『黄砂の村をゆく』 好評発売中！

ぜひ1冊お手元において、GENの活動を広げるためにご活用ください。

●『黄砂の村をゆく～中国黄土高原の緑化にこだむNGO～』上田信著・緑の地球ネットワーク発行・A5判56頁
価格：1冊500円（郵送料別）、5冊以上の場合1冊400円。

GEN自然と親しむ会 新緑の比良山系を歩く

新緑がまぶしい季節、さわやかな5月の1日を、南比良で植物や小鳥たちを観察してすごしませんか。2月に訪れた宇治市植物公園で見た冬の落葉樹の林とくらべてみるのも面白いでしょう。

●日時：5月24日（日）10時集合、15時ごろ解散予定

●集合・解散：琵琶湖アルプスゴンドラ「さんろく」駅前（JR湖西線「志賀」駅下車、9時42分発江若バスで15分、「琵琶湖パレイ前」下車すぐ）

●場所：打見山、蓬萊山、小女郎峠、小女郎池方面

●案内：立花吉茂先生（花園大学教授、GEN代表）

●参加費：一般700円、中学生以下200円（保険料をふくむ）

●申込み締め切り：5月20日（水）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで

●もちもの：弁当、のみものなどハイキングの準備と筆記用具。あれば携帯用図鑑、双眼鏡など。

※雨天中止。前日・当日朝の連絡は、川島（TEL. 075-981-788）で。
！江若バスは本数が少ないので、乗り遅れると集合に間にあいません。

1998 夏 黄土高原ワーキングツアーのご案内

JAグループ環境推進協議会が、テレビ朝日『素敵な宇宙船地球号』でとりあげられた広霊県苑西庄村を訪ねるワーキングツアーを企画、「緑の地球」読者にもひろく参加を呼びかけます。

日本から資金協力を得ての井戸掘りの進捗状況次第では、通水式に立ち会えるかもしれません。

●日程：7月23日（木）～29日（水）

●費用：一般18万円、学生17万円（詳細は同封のチラシをご参照ください）

●定員：25名（最小催行人員15名）

●締め切り：6月19日（ただし、定員に達し次第締め切ります）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで。

地球環境林センターに宿泊施設が完成、霊丘県には環境林センター支所ができました。夏のツアーでも、今回はしっかり作業を用意します。

●日程：7月30日（木）～8月7日（金）

●費用：一般20万円、学生19万円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN会費1年分ふくむ）。※中国国際航空利用、関空発着。成田空港利用ご希望の方、北京・大同で合流ご希望の方はご相談を。

●定員：25名（先着順）

●締め切り：6月30日（定員に達し次第締め切ります）

●問合せ・申込み：GEN事務所まで



中国国内での関心たかまる

大同での緑化協力を高く評価

この春はGENが独自に派遣した2つのツアーと、全ジャスコ労働組合・富士ゼロックス端数倶楽部のツアーあわせて90人余りが大同の緑化協力地を訪れ、地元の人たちといっしょに植林作業にとりくみ、ことしはツアーとしてははじめて農村でのホームステイを実施しました。年を追うごとに参加者数が増え、現地での活動が充実していることは、この協力活動が発展しつつあることの証だと思えます。

中国国内でもこの活動への関心が高まっています。92年春にこの活動を開始したときの中国側責任者だった支樹平さんは、いまでは中共山西省委員会常務委員ですが、4月に私たちの協力拠点・地球環境林センターを視察し、「ここは国際協力・緑化・青少年教育の大きな拠点だ」とのべ、この協力活

動を高く評価しました。そのさいには大同市の党書記・副書記・市長・副市长など、大同市の党・政府の幹部がそろって同行し、事業の発展を支持してくれました。

また4月末からは、中華全国青年連合会が主催する「国際青年ボランティアキャンプ」の実施拠点として、地球環境林センターが選ばれ、イギリス・日本など世界各国からの青年が11日間宿泊し、育苗その他の労働に従事しています。主催者代表の曹衛洲主席助理は、「この協力活動は、青年連合会がとりくんできた国際協力事業のなかでもモデルとなるものだ。この経験を全国に宣伝したい」と述べています。

この春からは大同県の国営苗圃で、菌根菌を活用したマツの育苗がはじまり、また地球環境林センター霊丘支所

が新しく成立し、太行山木本植物園建設がスタートするなど、実質的な活動も急速に強化されつつあります。98年は私たちの協力活動にとって、とても重要な1年になりそうです。(高見邦雄)

張家口地震義援金

ありがとうございました

張家口市張北県の地震被災者に寄せられた義援金1,347,000円を、3月18～19日に遠田宏顧問と高見事務局長が現地を訪れ、村の人たちや小学生たちの見守るなかで地元の代表に手渡しました。この義援金は、震源から10kmほどの台路溝郷爬胡不落村小学校の再建にあてられ、ことしの8月末までに新しい校舎が完成することになります。

世界の森林と日本の森林 (その14)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●植物の多様性

日本の森林の特徴は、構成樹種が多く、多様性に富んでいることである。といっても、他との比較がないとピンとはこないだろう。構成樹種の点からいえば、全国が森林であり、北から針葉樹林、落葉樹林、照葉樹林と異なる三大樹林帯を有し、全体で高木の種類が600種に達するが、広大なシベリアの森林は多くは1～3種類で成り立っているし、ヨーロッパは全体でも100種もない、といえ、日本の森林の構成樹種の多さは理解できよう。構成樹種が多ければ、その自然は多様性に富む。けれども、この説明だけでは、種の多様性は理解できないだろう。

生物の多様性が重要だ、とだけ言われてもう大分年数がたったが、多様性の真の意味は、一般にはやや難解である。「生態系」という言葉をなんとなくわかったつもりで使っているのに

て、「多様性」もまたなんとなくわかったつもりになりがちな言葉である。いろいろ違ったものが混ざりあって存在していること、ぐらゐの認識である。たしかにそうに違いないのだが、「全体の多様性」と「種の多様性」では大分ようすが違う。後者を理解するには、複雑な森林に入りこむよりも、数種類しか植えていない都市の街路樹を見た方がはるかにわかりやすい。たとえば、ケヤキとイチョウに対してヤナギとポプラを比較するとわかりやすい。前者は栄養繁殖がやや困難な植物だから、

都市の公園部に納入される苗木は種子繁殖によるものであるのに対し、後者は挿し木が簡単で早くそろった苗木ができるから、栄養繁殖のクローンが植えられている。したがって、前者には個体変異があって、萌芽期の芽の出方や葉の展開の時期が1本ずつ微妙に異なっており、秋の落葉期にも個体ごとに早晩に差が見られる。これに対して栄養繁殖のヤナギやポプラは同じ遺伝子の個体ばかりだから、きれいにそろっている。これがもしそろっていない場合は、電気照明に影響されるなどの環境要因によってそろわないのである。前者の個体変異はまちがいに種が多様性を示している。公園には、樹木の戸籍簿はないが、植物園にあるのは、この辺の重要性が存在するからである。

表1. 植物の繁殖法と多様性の関係

細胞分裂	繁殖	成木
体細胞分裂 遺伝的に全く同じ細胞が2つになる	挿し木 (接ぎ木、取り木)	そろっていて多様性は見られない
減数分裂 遺伝的に異なった4個の配偶子ができる	受精 (ここでも多様化する) 種子発芽 (苗木、若木)	個体変異があらわれて多様性が見られる

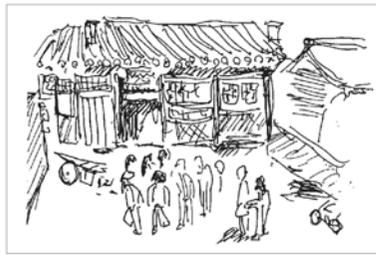
今春は4つの団が大同を訪れました。雪中のバス「大」旅行や、砂嵐、農家でのお待、子どもたちとの作業……参加者それぞれにあざやかな印象をのこしたようです。写真、スケッチ、エッセイを参加者のみなさんからよせていただきました。



【左上】作業の合間にエニシダに花の蜜をすう子どもたち(今村藤三郎・第2班)【上】掘越しに「じゃんけんぼん！」(森満博子・第1班)【左】ツアーをもてなすあいだ、ずーっと笑いつばなした陽気なおばちゃん(森満博子)【下】楊窠村の農家(上野哲・第1班)



★第2班で最年少23才の私は体育会でもならした体力を生かし、植樹にいそむ、はずでしたが、5日目の天鎮県丁



家畑村での作業では5本しか植えられず、ひどい腰痛になりました。作業後、天鎮県から大同市に帰る途中、温泉に



中国的回憶 あやしい一歩 ● ぐらぶいそい

【左】突然の砂嵐で視界が20mほどになり、バスも30分ほど立ち往生(今村藤三郎)【左下】(藤井啓介・第1班)【下】いきなりなのですが、農家のトイレです(上野哲)



泉に入れるなんて考えませんでしたね。日程表になかったことだけに、儲けもの、って感じです。(藤原茂樹・第2班)



【左】「楊窠村の仙人じいちゃん」(森満博子)【下】公安のお兄ちゃんと。お兄ちゃん、どこ見てんの？(藤井啓介)【下】トラックの荷台にゆられて植樹作業に向かう(高見邦雄)



★サバイバル班、村の童女とお手をつないで野道を行き、学校はどこか問えば、谷の向こうを指さす。訪ねれば、学校に招き入れられ、茶の接待。聞けば教頭さん。

朝食時、子どもたちの声。なんと座っている椅子が学校のもの、途中で記念写真。椅子を持って、学校で自己紹介。一定再来。再見！(松本正之・第1班)



ワーキングツアーの新しい試み

上田 信 (立教大学教授)

この春のワーキングツアーでは、ささやかな冒険をしました。少人数で村に滞在させてもらったのです。場所は昨年訪れた広霊県の楊窠村。午前中にツアーの一行とともにアンズの木を植え、昼食を全員で食べたあと、私たち五人(翌日に一人が合流)が村に取り残されました。サバイバル班と呼ばれ、過酷な二日の村ステイが始まるのかと、緊張気味。しかし、実際は私たちを引き受けてくれた村の書記の楊路宝さんの配慮で、のんびりとした時を過ごすことが出来ました。

「黄土高原って、こんなに静かな処だったんだ」。ツアーで村を訪問した

ときは、村全体がお祭り騒ぎとなるのですが、本隊が去ると村はすぐに日常のペースに戻ります。たまたま私たちが訪れたのが土・日であったので、学校に行く必要のない子どもたちだけが、私たちを取り囲んではいしゃいでいるだけで、大人たちは畑に出かけ日中は村を出払っています。若い男たちは、早朝にトラックの荷台に鈴なりとなり、左官仕事道具を手にして近くの町や村の建築現場に向かって出ていきました。夕方に山に向かって歩いていくと、ヒツジの群を駆って山野を巡ってきた羊飼いの男に出会いました。ヒツジたちは、ようやく芽吹いたばかりの草を、なめるように食べ尽くしています。

ツアーを迎える村の側に立って緑化活動を考えること、これがこの少人数での村ステイの目的です。このような冒険のなかで、今後の黄土高原における活動をひびいていける人材を育てることができないだろうか、とも考えています。ツアーの一行が村の人と植えたアンズ園は村から見ると遙かに遠く、村人の視野のなかに緑化の重要性がちゃんと取まるようになるには、まだ道のりがあるな、と今回のステイのなかで実感しました。緑化はその土地に住んでいる人々に支えられることによって、はじめて進むのです。緑化活動の方針を考えるとき、村での滞在経験が思索の出発点となるでしょう。今回のささやかな冒険が、意味あるものになってくれればと念じています。

力をあわせて ~WT日記から~

河村 政子 (全ジャスコ労働組合)

今日は、守口保村の果樹園で植樹。さすがに3日目ともなるとスコップの使い方も慣れ、初めて作業した時とは別人のよう。手伝ってくれる地元の子どもたちとの息もあって、スピーディに作業は進む。朝から雨が降ったりやんだりの不安定な天気の中、作業を早めに切りあげ、わずかな晴れ間をねらって、古長城に登る。斜面のきつい傾斜で日頃の運動不足を痛烈に感じ、頂上付近では強風と戦いながら、やっとの思いでろし台の頂上へ。到着した瞬間、それまでの疲れや辛さが、一瞬にして爽快感と達成感に変わる。観光地で有名な北京の長城が原型をしか

は違って古代の壮大な歴史を感じさせてくれる。自分がいま立っている場所から、東へも西へも長く続く長城のさまに圧倒され、果てなく広がっている大地の広さに見惚れているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまう。村でおいしい昼食をご馳走になった後、小学校を訪ねる。子どもたちが、決して良くない環境の中で、薄い紙のノートにびっしりと字を書き、びんと背筋を伸ばして勉強している姿を見て、私たちが「彼らに何かをしてあげる」という傲慢な考えではなく、「彼らとともに力を合わせて何かができる」という気持ちで、これからの中国と自分



り残っていて風景美、芸術美を感じさせてくれたのと、実際に訪ねてみると、想像以上に素晴らしい景色と文化を感じた。そして子どもたちひとりひとりの輝く瞳の中に、みなぎるパワーを感じたのは、私だけではないと思う。今回のツアーでは、実に多くの体験をし、私がこれまで知らなかった「新しい中国」を知ることができた。これから自分に何が出来るのか、どう行動すべきなのか、いろいろアンテナをはりめぐらして生きていきたいと思う。そしてぜひまたこの地を訪れてみたい。

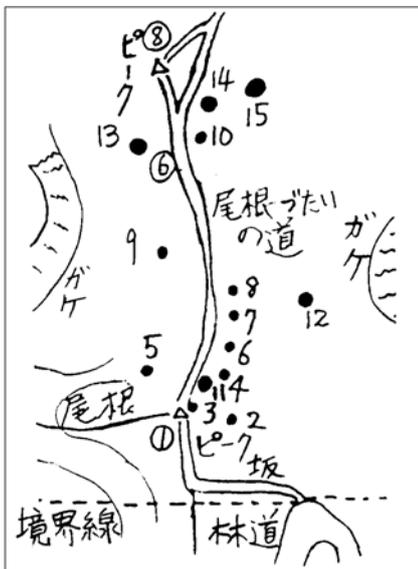
チコロナイの森の植物たち(2)

武田 繁典 (チコロナイ部会担当世話人)

ナショナルトラスト「チコロナイ」第1期計画で取得した、3.4haの山林の植物たちを、前回に続いて紹介していきます。

今回はピーク①からピーク⑧(80m)までの尾根道の両側にある5本の本を紹介します。図の中の●11から●15までのところに生えています。

和名、(別名)、科名、アイヌ語の名前、(ローマ字表記と意味)、名札をつけた人の名前を書きました。



- 11 シラカンバ (シラカバ) かばのき科 レタツタツニ (retar-tat-ni 白い樺の木) 96.8 篠井里絵
- 12 ウダイカンバ (マカバ) かばのき科 シタツニ (si-tat-ni 本当の樺の木) 96.8 伊田明美
- 13 コナラ (イシナラ) ぶな科 ペロ (pero なら) 96.8 木太なつき
- 14 アオダモ もくせい科 イワニ (iwa-ni) 96.8 勝山明彦
- 15 キタコブシ もくれん科 オプケニ (opke-ni 尻をする木) 96.8 木村敦志

11と12はともにタツニ (tat-ni 樺の木) でタツ (tat) は樺皮のこと、民具の材料や燃料に用います。

おもしろいのは、ウダイカンバのウダイが鶴松明 (うだいまつ、鶴飼のと

きのたいまつ) に由来することです。「アイヌの民具 (萱野茂)」によれば、鮭漁のときのたいまつにチノイエタツ (che-noye-tat 我らねじる 樺皮) を用いるとのこと。

シラカンバは、去年の春のツアーのとき経験したのですが、幹に傷をつけると透明な樹液がでて、ほのかな甘味があります。札幌の自然食レストランでも売ってました。北海道新聞 (4月16日) によると、北海道美深町である会社が大量に採取しているとのこと、1本の木から1日4リットルほどとれるそうです。

13.コナラは前回の2.ミズナラと近縁の種ですが、貝澤耕一さんは、「これはミズナラこれはイシナラ」と区別して教えてくれました。アイヌ語に違う呼び名があるのでしょうか。図鑑にミズナラの別名オオナラとあります。関西ではミズナラは高い山にすこし、コナラ (イシナラ) は低い山にたくさんあります。

15.キタコブシの「尻をする木」は、本当は、枝を折るといい匂いがして、これを病魔に隠すためにこう呼んだといひます。枝が水を浄化したり、つぼみが漢方薬に使われるそうです。

ところで、5月の北海道は待ちに待った春がいっぺんにやって来て、本当にすばらしいといわれます。昨年、山菜取りとアイヌ料理体験の「春の二風谷ツアー」を実施しました。このときの「チコロナイの森」はまた格別でし

た。

キタコブシの白い花、オオヤマザクラのピンクの花、赤みがかったカツラや淡い緑のカラマツなど、それぞれに少しずつ違う色の芽生えと新緑。さらに、足元のササの間のあちこちには、赤紫色のカタクリ、白色のニリンソウ、フッキソウ (ユキノシタ)、青紫色のエゾエンゴサクの花が咲いていました。シラカンバの樹液も味わい、春のいぶきを身体いっぱい感じて楽しむことができました。かわいい花たちのアイヌ語名を書きます。

- カタクリ ゆり科 エシケリムリム (eskerimrim)
- フッキソウ (ユキノシタ) つげ科 ユクトパキナ (yuk-topa-kina)
- ニリンソウ (イッポンナ) きんぼうげ科 ブクサキナ (pukusa-kina)
- エゾエンゴサク けし科 トマ (toma)

次回からも続けてチコロナイの森にみられる木や草たちを紹介していきたいと思ひます。みなさん、今年の夏に、チコロナイの森の植物たちに会いにいきませんか。

【参考文献】

- 「原色日本植物図鑑木本編」(保育社)
- 「萱野茂のアイヌ語辞典」(三省堂)
- 「アイヌと植物」(白老・アイヌ民族博物館発行)



ニリンソウ (ブクサキナ)

チコロナイ第2期計画 現状報告

期間 1995年12月10日～98年12月9日
 目標 7,000,000円
 現在の金額 5,039,418円 (繰越金をふくむ)
 協力者人数 425人 (第1期から)
 第2期の募金目標700万円を達成し、できるだけ早く2度目の山林買い取りを実現したいと思ひます。

チコロナイの輪をますます広めてい

くためにも、多くの方々のさらなる参加を呼びかけます。今回は全員に郵便振替用紙を同封いたしました。とくに第1期でチコロナイの輪に加わられた方々で、第2期がまだの方、黄土高原の協力者の方でチコロナイはまだという方は金額はわずかでもけっこうですから、ぜひご協力をお願いいたします。新たに加わる方ももちろん大歓迎です。

ナショナルトラスト「チコロナイ」 現地宿泊研修会ご案内

今年で3回目！
北海道の自然と文化にふれる
チコロナイ子どもキャンプ

夏の北海道の自然の中で思いっきり遊び、現地の人びととの交流の中で、アイヌ文化の一端にふれる体験をしてみませんか。現地では、4人のチコロナイのメンバーがお世話します。

- 日時：1998年8月10日～13日
- 場所：北海道沙流郡平取町二風谷
- 内容：民宿1泊、キャンプ2泊。山歩き、自炊、アイヌの木彫り、刺しゅう、民族舞踊、博物館見学など。
- 費用：3万円（集合から解散〈千歳空港〉まで全費用、GENジュニア会員会費または会報購読料、チコロナイ通信購読料、保険料を含む）
- 募集：小学5年生～中学3年生15人（小学4年以下は保護者同伴で、高校生以上はスタッフとして参加可）

- 締切り：7月9日。早割り航空券を買うためにも早めにお申し込みを！
- 問合せ・申込み：武田繁典

第5回

二風谷ワーキングツアー

- 日時：1998年8月18日～23日
- 場所：北海道富良野市（集合）、沙流郡平取町二風谷（解散）
- 内容：東大演習林、チコロナイの森見学と作業、木彫り、刺しゅう、チップサンケ参加など、キャンプ1泊。
- 費用：5万円（集合から解散までの全費用、GEN会報およびチコロナイ通信購読料、保険料を含む）。
- 募集：15人（ただし全行程に参加できる人。2回目以降は部分参加も可）
- 締切り：7月17日。早割り航空券を買うためにも早めにお申し込みを！
- 問合せ・申込み：武田繁典まで

チコロナイアイヌ語講座 ～いやでもわかるアイヌ語～ 第4期第1回

- 日時：5月23日（土）14時～16時
 - 場所：GEN事務所
 - 資料代：第4期（6回）2,000円
 - 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
- ★第4期から『エクスプレス・アイヌ語』（中川裕、中本ムツ子著白水社）の6（動詞）のところからですが、初心者でも入れるように工夫しますのでどうぞ。また、1回だけの飛び入りも大歓迎です（400円）。

第33回 チコロナイ学習会の ご案内

- 日時：5月23日（土）16時～18時
- 場所：GEN事務所
- 内容：5月の連休に二風谷を訪れた人の現地報告を聞きます。時間があれば、「チコロナイの森の植物たち」の紹介もします。
- 参加費：100円+カンパ
- 問い合わせ：武田繁典
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

「チコロナイ」に
95年5月以前に寄付された方へ
お知らせ

募金活動の案内のなかで、寄付された方に、以降3年間、1年に2回、経過報告をお送りすると書いています。今まで、GEN会報「緑の地球」をお送りしてきました。しかし、95年5月以前に寄付されて以降継続されていない方は、この号が最後になります。「チコロナイ」とのつながりを継続するためにも、少額でもご寄付をお願いします。また、「緑の地球」の59号、60号の関連記事を別刷りで同封しましたので、お読み下さい。

これからも、学習会やアイヌ語講座、二風谷現地での宿泊研修会を計画しています。ぜひご参加ください。

月刊「チコロナイ通信」 購読のご案内

現地宿泊研修会などチコロナイ関係の行事予定、ミニニュース、連載「アイヌ語ひとくちメモ」、リレー自己紹介&エッセイなどを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。ご希望の方は郵送料ともで1年分1,200円を80円切手15枚で同封し、武田繁典までお申し込みください。

【“チコロナイ”連絡先】

武田繁典 〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6（TEL./FAX06-704-7720）
貝澤耕一 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3（TEL01457-2-2089 FAX.01457-2-3991）
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」



GREEN なんでも勉強会第2期
 “よそ者”として
 地域とかかわること 最終回

- 日時：6月11日（木）18時30分～
- 場所：GEN 事務所（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅から徒歩）
- 講師：深尾葉子さん（大阪外国語大学助教授）
- 参加費：3回で2000円（1回だけの場合は700円）

関東 brunch 学習会

- 日時：6月20日（土）15～18時
- 場所：立教大学池袋キャンパス12号館2階第2会議室
- 内容は検討中。
- ★当日会場のTEL. 03-3985-2585
- ★問い合わせ：上田 信（TEL./FAX.

042-323-5774、mail : gfa06526@niftyserve.or.jp

橋本紘二写真展

クリヤーの山

タイ山岳少数民族ラフ族の暮らし

冬におこなわれた東京に続いて、大阪でも橋本紘二さんの写真展が開かれます。タイの山岳少数民族の暮らしをとらえた作品が紹介されます。期間中は橋本さんが来阪。「橋本さんを囲む会」も企画しています。

- 日時：6月11日（木）～6月17日（水）10時～18時（最終日15時まで）
- 場所：コニカフォトギャラリー（地下鉄御堂筋線「心齋橋」駅1番口徒歩3分、御堂筋エスジービル11F、TEL. 06-252-5434）
- 日曜休館、入場無料
- 【橋本さんを囲む会】
- 日時：6月15日（月）18時30分～20時30分

- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター（JR環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口から直通路でORC200に。2階中央のエレベーターで7階へ）
- 参加費：700円
- 問合せ：GEN 事務所まで

八尾

環境フェスティバル

- 日時：6月13日（土）10時～15時
- 場所：八尾市立総合体育館「ウィング」メインアリーナ（近鉄「山本」駅から徒歩14分）
- 主催：（社）八尾青年会議所
- 内容：河内ブナの放流やクイズなど、イベントを楽しみながら環境について考えましょう。GEN もブース参加しますので、お近くの方、ぜひどうぞ。ブナの放流に参加希望の方は、会場入口にて10時に受けつけ開始、順次バスで玉串川の放流地点に向かいます。